

1 「本質的な問い」による単元構想について

- カリキュラムマップを基に、小学生からこれまでどのようなことを学習してきたかを把握した上で、単元を構想することができた。また、個別の問いを解決するために、しかけとして修学旅行や校外学習で施設を訪問し、生徒は実際に体験したことを解決策に活かすことができた。このことは、年間を通して「本質的な問い」を念頭に置いて単元を構想していたからこそだと考える。

2 単元で育成を目指す資質・能力について

質問内容	アンケート結果（％）	
	事前	事後
① 10年後20年後に呉市に住みたいと思う。	16	71
② 呉の魅力を説明できる。	42	84

【知識・技能】

- アンケート結果②の肯定的回答の数値が2倍になった。これは、体験活動を通して得た知識や課題解決のために調べた情報を獲得している知識に結び付けて活用できたからだと考える。

【思考・判断・表現】

- 学校全体で取り組んでいる「自己表現の場」の機会でもあった。国語科で学習したパブリックスピーキングも生かし、表現することができた。
- デモンストレーションをした際に出た意見を基に、さらに相手を意識したスライドや発表の仕方を修正・改善することができた。
- 研究授業では、発表者が限定されたことで特定の生徒しか見取ることができなかった。

【主体的に学習に取り組む態度】

- 事前アンケートで将来、呉に住みたいと思っている生徒がクラスに2人しかいなかった点が最大の課題であったが、学習後には肯定的回答が大幅に増加したことから、単元を通して主体的かつ協働的に取り組んだ成果だと考える。

〈生徒の振り返り〉呉の欠点を洗い出し、その欠点をいかにお金をかけずに改善すればよいかを考えるきっかけになった。次の本当の市長選挙も公約について見てみようと思った。

3 「デジタル機器」の活用

ロイロノート

- テキストを使って自分の考えをまとめるだけでなく、生徒間通信や共有ノートを使うことで、グループの考えやWebサイトを共有したり仕事の分担をしたりして効率化を図ることができた。
- 教師が事前・事後アンケートを取るのに有効であった。また、生徒自身も他学年に取りたいアンケートを作成していた。

Google フォーム

- どのプレゼンテーションが良かったかアンケートを取る際に、参観していた生徒に教師にも送ることができた。

別紙様式